

日付:2015年10月11日／聖書:エレミヤ書7:1～15

説教:「預言者が語る“現実と希望”」

今日の箇所、「主の神殿、主の神殿、主の神殿という、むなしい言葉に依り頼んではならない」とある。これは、エジプトとの戦争に敗れたにもかかわらず、神殿が残されていることに驚き、神殿崇拝に重きが置かれていく。国がこれからどうなっていくのか、国を司る者や民の不安から、この神殿がある限り、ユダ国は安泰だ、この神殿が我々を救ってくれている・・・という風潮に流され、神殿を心の拠りどころにして行く。そうするとこの神殿を維持するために国の税金がつき込まれた。その国づくりには格差社会が生まれ、置き去りにされた者たちが出て来る。見なければならぬ問題、考えなければならぬ問題をないがしろにしたことに対し、エレミヤの指摘であった。

5-6節「この所で、お前たちの道と行いを正し、お互いの間に正義を行い、寄留の外国人、孤児、寡婦を虐げず、無実の人の血を流さず、異教の神々に従うことなく、自ら災いを招いてはならない。」ここには、弱い立場、貧しい者が、虐げられている現実があった。エレミヤは、預言者として見なければならぬ現実、考えなければならぬ現実の問題を語ったわけである。では、この国を司る政治家は、何を語っているか。見なければならぬ現実、考えなければならぬ現実の問題を語っているか。それは、私が言うまでもないが・・・。

オリンピック誘致の為に大ウソをついた安倍首相「汚染水による影響は福島第一原発の港湾内で完全にブロックされている。・・・」是が非でも誘致したいがために福島の人々の気持ちをないがしろにする。日本の積極的平和の為に、安保法案を強制採決した。戦争が出来る国づくりを推し進めた。70年前の戦争を体験された方々が、二度と戦争は繰り返すまいと心に刻み、涙するその思いを、無残にも殺されて行った人々の命を、ないがしろにする。辺野古に新基地ありきで強行に建設を推し進める日本政府。これまで軍事基地建設のために土地が奪われ、泣き寝入りを強いられ、基地問題で地域が二分され、広大な米軍基地を抱えるため常に命が危険に晒され続けている沖縄。政府の辺野古新基地建設の強行は、沖縄の人々の思いを、命をないがしろにしている。まさに、エレミヤが神殿の前で叫んだ事は、見なければならぬ現実、考えなければならぬ現実の問題を語ったのだ。

ただ、この現実に希望はあるのか。神は「お前たちの道と行いを正し、お互いの間に正義を行え」という。「武器を持て」とは言わない。「そうすれば、・・・この地、この所に、とこしえからとこしえまで住まわせる」と神は言う。そこに「現実と希望」があるのではないかと思う。71年前の「十・十空襲」の悲劇を覚えて。(神谷)